

美しい富士山を、未来の子どもたちに

ふじさんネットワーク

FUJISAN NETWORK

2023.3

vol.
66

巻頭インタビュー

人と自然から学ばせていただく。
富士山の素晴らしい
自然環境に感謝！

富士自然観察の会 会長 小澤 緑さん

令和4年度の富士山エコレンジャーの活動
富士山登山者の安全意識やマナーについて
富士山周辺の外来植物除去について

根原県有地の草原維持
ごみ減量大作戦の実施
富士山ごみ持ち帰りマナー向上対策事業の実施

美しい富士山を、未来の子どもたちに

ふじさんネットワーク

2023.3
vol. 66

Welcome



Join Us

「ふじさんネットワーク」 会員募集中！

Check！

「ふじさんネットワーク」は、その活動を通じて、富士山を国民の財産として、世界に誇る日本のシンボルとして、後世に引き継いでいくことを目的とします。富士山の環境保全活動を行うグループ、自然保護団体、NPO、企業、マスコミ、行政等による会員制のネットワーク組織ですが、富士山を愛する人なら個人でも登録ができます。

入会費
年会費
無料

特典

- 「ふじさんネットワーク」の冊子が届きます
- イベント情報をいち早く入手できます
- シンボルマークが使えます

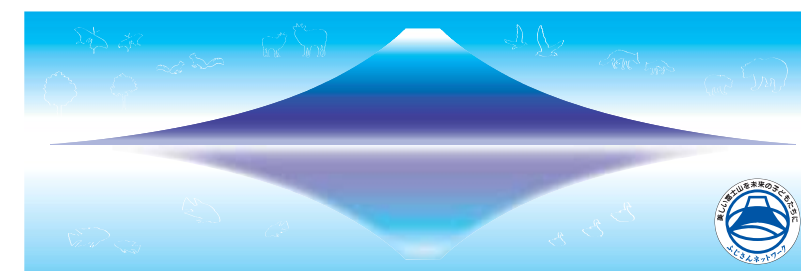


「ふじさんネットワーク」の取り組みなどは
ホームページから見ることができます。

<http://www.fujisan-net.gr.jp/>

寄付していただいた方に
オリジナル記念品
を差し上げています

「富士山総合環境保全指針」と行動規範としての「富士山憲章」の周知・定着を図り、富士山の環境保全への関心を高めてもらうため、ふじさんネットワークの環境保全活動への寄付を募るとともに、記念品を差し上げています。



NEW

新寄付記念品 手ぬぐい「鏡富士」

■サイズ: (約) 35cm×90cm ■綿100% ■1口: 1,000円以上

ピンバッジもぜひ御利用ください。
一口300円から気軽にできる寄付です。

高級感のある光沢加工で
文字はゴールドのピンバッジです。

SAVE Mt.FUJI

- ピンバッジ(1個)
- サイズ: 直径26mm
- 1口: 300円以上



花シリーズ

- ピンバッジ(1セット5個組)
- サイズ: 1個 1辺33mm
- 1口: 1,000円以上



富士山の雲シリーズ

- ピンバッジ(1セット4個組)
- サイズ: 1個 直径32mm
- 1口: 1,000円以上



直接受取希望: ふじさんネットワーク事務局まで、事前に御連絡をいただき、受取希望日時をお伝えください。

寄付をいただいて、同時に記念品をお渡しします。(TEL 054-221-3498)

送付希望: QRコードを読み込み、HPの寄付専用申込フォームにて申請してください。もしくは、郵便、電話、FAXまたはメールで①～⑤の事項をお知らせください。①名前 ②住所 ③電話番号 ④寄付金額 ⑤希望する種類・個数
振込用紙を住所へ送付します。振込の確認ができれば、記念品を送付します。(振込手数料・送料は不要)



ふじさんネットワーク 2023年3月 vol.66

編集・発行 **ふじさんネットワーク事務局**

静岡県くらし・環境部環境局自然保護課内 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

電話: 054-221-3498 ファックス: 054-221-3278

E-mail: 3776fuj@pref.shizuoka.jp URL: <http://www.fujisan-net.gr.jp/>

ふじさんネットワーク

- 設立 平成11年10月23日
- 会長 増澤 武弘
(特定非営利活動法人静岡自然環境研究会理事長・静岡大学客員教授)
- 会員数 568団体・個人(令和5年3月3日現在)

※本書の作成には、マックスパリュ東海株式会社からの寄付金が使われています。



富士自然観察の会西日塚観察会2021

巻頭インタビュー



富士自然観察の会
会長

小澤 緑さん

Interview

人と自然から学ばせていただく。
富士山の素晴らしい自然環境に感謝！

もともと自然が大好きで幼少の頃から魚を獲ることが好きでした。家庭でも七草粥を食べたり、夏の

私に関わったきっかけ



浮島ヶ原自然公園から望む富士山

富士自然観察の会の結成は、昭和50年代の終わりに富士市大淵の丸火自然公園にて日本自然保護協会による「自然観察指導員講習会」が行われたのが契機でした。この講習会の参加者有志が自然観察会を企画、会合を重ね、昭和60年（1985年）3月24日に設立され、総会を行いました。設立当時（昭和60年度）は会員数28世帯、観察会は6回でした。現在（令和4年度）は運営委員が30名、会員数は160世帯にもなっています。

設立の経緯

夜には庭で鳴く虫の声を聴いたり、玄関を開けると大きな富士山が見え「おはよう！」と挨拶したり、いつも暮らして共に自然、そして富士山がありました。結婚して娘が通う原田小学校6年生の頃に、富士自然観察の会・前会長の山田高先生が校長先生になり、そこから会との関わりが始まりました。当時私はPTAの役員で、山田先生が創設された原田湧水クラブというエコクラブの活動写真を撮るお手伝いをするようになりました。その活動写真を撮っているうちにいつしか私自身が自然観察に夢中になって、その後山田先生の勧めで、富士自然観察の会に入会しました。平成18年から24年に富士市環境マップ事業（富士市域を500m×500mのメッシュで区切り対象種を調査する）が行われ、初代会長の中山芳明先生のご指導を仰ぎながら先輩たちと毎週海から富士山中腹まで駆け回った時のことが、土台としてあります。

富士自然観察の会、カナヘビを見つけたよ。



県の実業協力もしています。とにかくライフワークである自然観察の会に参加してくれる方

今では年間15回の通常観察会、毎月1回の平日観察会、毎月1回の季節だより観察会、また定期的な観察会のほかに、浮島ヶ原自然公園の土日祝ガイド、自然の調査・勉強会など、富士自然観察の会の活動のほか、富士市環境アドバイザーを拝命していることから、富士市が実施する各事業への協力や静岡

私が思う自然との関わり



富士市子どもエコクラブ交流会宝永火口

美しい富士山を、未来の子どもたちに

ふじさんネットワーク

FUJISAN NETWORK

2023.3

vol.

66

CONTENTS

- 03 「巻頭インタビュー」
人と自然から学ばせていただく。
富士山の素晴らしい自然環境に感謝！
富士自然観察の会 会長
小澤 緑さん
- 05 令和4年度の富士山エコレンジャーの活動
富士山登山者の安全意識やマナーについて
- 06 富士山周辺の外来植物除去について
根原県有地の草原維持
- 07 ごみ減量大作戦の実施
富士山ごみ持ち帰りマナー向上対策事業の実施
- 08 「ふじさんネットワーク」
会員募集中！

表紙の写真



富士山と桜

出典『素材辞典vol.37富士山・桜編』

富士山憲章（行動規範）

- 1. 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 1. 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 1. 富士山の自然環境への負担を減らし、人との共生を図ろう。
- 1. 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 1. 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

静岡県・山梨県

が多くなったことは大変嬉しく思います。

より多くの方に、自然を好きになつて欲しいので、わかりやすく、そして、楽しくお伝えするにはどうしたらいいのかわいとも考

えています。また、

時代の流れを考慮しながら、人と自然が共生していくことが大きな社会のカギとなつていると共に、人

人との繋がりが大切だと感じており、人と自然、人と人

伝いができればなと思つています。最近では、活動に参加している子どもたちが、観察会のガイドを手伝つたり、保全活動にも参加してくれ頼もしい限りです。

まだまだ分からないことばかりですが、ありがたいことに植物、昆虫、生き物、岩石、自然遊びなど様々な得意分野を持った運営委員さんたちや、参加してくださる会員さんたちの支えがあり、また、行政の職員さんも熱心に協力してくれるお陰で、活動が成り立っています。多くの方から自然のことを学ばせてもらっています。



富士市の貴重な自然と偉大な先輩方に感謝

富士自然観察の会が今でも成長し、さらに魅力を高めている理由は、ひとえにこの素晴らしい自然環境が整った富士市にあります。富士山を海から

(海拔0メートルから)

頂上までのすべてと捉え、頂上まで登らなくとも至る所に富士山の魅力

や富士山の恩恵を感じることができるのは、富士市に住んでいる

からこそではないでしょうか。子どもたちにも「豊かな自然は富士山からの宝物」とか「富士山と」に暮らしているんだよねとよく話します。

最後にこの富士自然観察の会を設立してくださった素晴らしい先輩方に改めて感謝を申し上げます。

私は参加した当初から先輩方の背中を見て、試行錯誤しながらも全力で富士自然観察の会の活動を進めてきました。今後も、この活動を地域に根差したものにしていく為

にさらに盛り立てていきたいと考えています。



子どもたちが意見や感想を出し合って作った原田新聞(2022)



サワトラノオガイド2022.5



お ざわ みどり 富士自然観察の会 会長
小澤 緑氏 富士市生まれ富士市在住

・富士市環境アドバイザー
・富士市子どもエコクラブサポーター連絡会 会長
・原田湧水クラブ代表(子どもエコクラブ)
・静岡県環境学習指導員

・ふじさんネットワーク幹事
・富士市環境審議会委員
・富士市立博物館協議会委員

富士自然観察の会 公式ウェブサイト
<http://ukishimagahara.net/>
メールアドレス
fujishizen@ukishimagahara.net

ボランティア
・チームちよこ美
・原田読み聞かせの会
・富士市生物多様性サポーター
・浮島ヶ原自然公園ガイド



令和4年度の富士山エコレンジャーの活動



令和4年度に入り、新型コロナウイルス感染症への認識や対応が変化し、屋外での活動制限が緩和されてきたこともあってか、富士山の登山者数は令和3年度よりも増加しました。

富士山エコレンジャー・富士山エコサポーター(以降、富士山エコレンジャー等)の活動もしやすくなり、登山道等を歩いている環境パトロール実施延べ日数も増えました。



合同環境パトロール

富士山の登山者数 環境省発表 は、令和3年は約8万人でしたが、令和4年は約16万人まで増加し、新型コロナウイルス蔓延前の数字に近くなつてきています(令和元年以前の登山者数は20万人台/年で推移)。

登山するすべての人が、準備をしつかり行い、マナーが良いとは限らないため、環境保全のために現場で登山者にマナーを教えたり、自然の解説をしたり、体調不良や負傷した方を助けられる人が必要となります。

富士山エコレンジャー等は、富士山の登山者に対して、マナーを守ってもらうようお願いしたり、自然の解説をすることを役割として始まったボランティア制度で、登山者が増えてくると、富士山エコレンジャー等の



富士山エコレンジャー養成研修「自然関係③昆虫」

活躍の機会も増えることとなります(過去に、富士山エコレンジャーが負傷者の応急対応をしたこともあります)。
ふじさんネットワークの正会員から推薦を受けて登録される富士山エコサポーターが、富士山エコレンジャーになるための研修では、動物、植物、地学、歴史関係、行政の施策、危機管理等、幅広く専門家の講義を受けることができます。研修を受けて知識を得たり、現場に足を運んで仲間や登山者とコミュニケーションを取ることで、知見を広めることもできます。
自分自身のスキルアップに加え、富士山の環境保全活動を行うボランティアになることを目指し、まずは富士山エコサポーターに登録してみようという有志の方をお待ちしております。

NEWS×COLUMN×REPORT



富士山エコレンジャー養成研修「危機管理」

令和4年の富士山開山期間中は、毎日のように高い頻度で遭難に関するニュースが報じられていましたが、開山日数63日で、50件51人が遭難、救助されたそうです。
遭難者を世代別に見ると、若年者の割合が多く、転倒等の怪我が減り、疲労で動けない等の理由が増えたそうです。
これは、登山経験が浅いための準備不足、体調管理が不十分、引き返すべき状況を見極められないこと等が要因だと考えられます。
富士山エコレンジャー養成研修には「危機管理」という科目があり、令和4年度は、静岡県警富士宮警察署の山岳遭難救助隊の隊員を講師に迎え、研修を受けました。
講義では、隊員の方は30kgの重りを背負って登山をしたり、人を背負って下山する訓練やヘリコプターによるホイススト訓練を行い、非常時に備えていると伺いました。
県警本部は救助要請があるとまず登山届の確認をするので、富士山に限らずですが、登山する時は登山届の提出も忘



富士山登山者の安全意識やマナーについて

れないで欲しいとのことでした。

ツイッターも開設されており、『静岡県警察地域部地域課』で検索すればアカウントが出てくるので、皆様(特に富士登山しようと考えている方)も御覧ください。
登山の準備不足は、安全に関する話だけではなく、ごみの発生にも関わります。ごみやトイレのマナー関係では、イメージもあってか外国人が取り上げられがちですが、安価な装備品を使用し、壊れたら捨ててしまうマナーを守れない人は、日本人にもいます。

富士登山に関するサイトは、環境省・山梨県・静岡県開設の「富士登山オフイシャルサイト」をはじめ数多くあり、準備やマナーについての情報は色々な方法で入手できるようになっています。

どのような準備をすれば登山時の安全が確保できるか、どのようなマナーがあり、守らなければならないか、富士登山を考えている方には事前に確認していただきたいと思ひます。また、周りに富士登山を考えている方がいる場合には、準備をしつかりして登山していただくようお願いいたします。お伝えいただけますと幸いです。





富士山周辺の 外来植物除去について

今年度第2回目の外来植物撲滅大作戦を、10月15日(土)に富士宮口五合目駐車場で行いました。

講師には(株)環境アセスメントセンターを迎え、6人が参加して外来植物の除去を行いました。

富士宮口五合目付近は標高が2,400m近くあり、車でアクセスできる場所の標高としては、日本で最も高い所になります。高い標高でしか見られない植物の生育地で、まさに外来植物から守らなければならぬ植物が生育している所になります。



外来植物除去の説明を受ける参加者

市街地とは気温が全く違って季節が進むのが早いので、当日は落ち葉が堆積していたり、枯れてしまっている植物も見られる状況でしたが、ロゼットで冬を越すために根に栄養を溜め込んだセイヨウタンポポ(国外外来種)や、まだ葉が青いヨモギ(国内外来



外来植物除去終了後の靴等の清掃

種等が、在来植物に混じって生育しています。このような生存能力が高い種が在来植物の中に入ってしまうと、在来植物が生存競争に負けて数を減らしてしまいます。ムラサキモメンヅル、タイツリオウギ、イワオウギ、トモエシオガマ、ミヤマアキノキリンソウ等、夏から秋にかけて富士宮口五合目駐車場付近で咲く花は、派手ではないかもしれませんが、人の目を惹きつけてくれますし、昆虫や鳥等が生きていくための糧になります。

高標高地に生育する希少種を守るためには、外来植物が五合目以上に持ち込まれないよう、分布拡大の最前線や、種子の供給源になり得る場所の除去を行う必要があります。

今後も、外来植物撲滅大作戦等を通して、外来植物対策の普及啓発を行っていきますので、皆様も御協力をお願いします。



ごみ減量大作戦の実施



避所など、車が停めやすい場所の近くにゴミが多い傾向があります。

この日は、お菓子の包装やタバコの吸い殻等の小さいごみや、缶、ビン、ペットボトル等毎回収される。ごみの他、細い板材や角材が回収されました。

令和4年度の第3回目は、令和5年2月下旬に富士宮市で開催予定でしたが、開催の判断をする2月上旬時点の新型コロナウイルスの警戒レベルが3だったため、残念なことに中止となりました。

ここ数年ボランティア参加者の募集ができず、関係者のみで実施していますが、ボランティアの皆様に参加していただくことが可能な状況になりましたら開催のお知らせをしますので、その際は御協力をお願いします。



回収したごみ

16名が参加し、富士山資料館や富士サファリパーク周辺の道路(469号)沿いを清掃し、約140kg(可燃)ごみ130kg、不燃(ごみ10kg)のごみを回収しました。待



根原県有地の草原維持



教授に感謝申し上げます。

根原周辺や他の草原で行われた調査の結果では、火入れは本植物の生育を抑えて草原を維持するために効果があるものの、複数年続けて行った場合、ススキ優勢になり、他の植物の勢力が弱まってしまい、植物の種の多様性が低下してしまうことがあるようです。

草原の中でも、ススキ優勢の区域だけではなく、ススキ以外の植物が被圧されずに生育できるような環境も作ることで、植物の多様性を確保し、ひいては昆虫や鳥類等他の生物の多様性も確保できる、ということになります。

草原の生態系の豊かさを維持し、守れるよう管理をしていくため、今後も草刈り作業や草原の自然を感じていただくイベントを続けていくので、皆様も御協力よろしく願っています。



根原県有地に生育する植物の調査



富士山ごみ持ち帰りマナー 向上対策事業の実施



平成29年の山開き期間中に大量のごみが登山道や山小屋周辺等に放置されたことから、平成30年度以降のお盆期間中に、登山者に対する「富士山のごみ持ち帰りマナー向上キャンペーン」が実施されることになりました。

登山者数が減少したのと比例してか、富士山の五合目以上で拾われるごみの量も減少している状況ですが、マスクが新たなごみとなったり、安価で耐久性が低く、強風等で使えなくなったカッパや傘等のごみが落ちていたり、必要十分な準備をして登山をしてくださいという啓発は必要です。

耐久性の低いカッパや傘を使用すると、破損して使用できなくなり、ごみとなってしまうことはもちろん、身の危険にさらされることになるため、命を守るためにも、雨風の侵入を防げる素材の装備を揃えることが必要です。

また、意図的に捨てる人だけでなく、意図せず落としてしまう人もいます。山小屋のトイレにごみが落ちていたため、維持管理に支障が出て迷惑している、という話も山小屋関係者から出てきます。

令和5年度も富士山の環境保全のためのごみ対策を継続していく予定なので、皆様も御協力ください。



ごみ持ち帰りマナーの呼びかけ

NEWS × COLUMN × REPORT



ごみ持ち帰りマナーの呼びかけ

富士宮口五合目のレストハウスが焼失したり、新型コロナウイルス感染症が蔓延したりと、事業の開始当初と状況が大きく変わり、登山者が減少したり、呼びかけがしづらくなっていたりしますが、依然として、ごみを捨ててしまう人が後を絶たないため、啓発を続ける必要があると考えられます。

令和4年度も、認定特定非営利活動法人富士山クラブに委託し、ごみ持ち帰りマナー向上対策事業を実施しました。

令和3年度は極力スタッフと登山者の接触を避けるために、呼びかけだけでごみ袋を配布していましたが、令和4年度は、密封式で生分解性の素材を使用したごみ